問19　次のプログラム中の　　　　　　に入れる正しい答えを、解答群の中から選べ　T

　　手続きMakeList(文字列型：Mvalue)は、リストを作成する。リストは、構造体の配列で表現する。構造体の定義は、次のとおりである。ここで、Listは大域変数であり、配列の添え字は０から始まる。添え字がnの要素List[n]のNextとValueは、それぞれList[n].Next 、List[n].Valueで表す。

　構造体：List[100]｛

　　　整数型：Next ＝ －1 /\* 次の要素の添え字、初期値は－1 \*/

　　　文字列型：Value　　 /\* 要素の値 \*/

　｝

　　手続きMakeList(文字列型：Mvalue)は、1回の呼出しで、文字列型の引数Mvalueを値とする要素を作成し、リストの最後に追加する。整数型の大域変数Listsizeには、リストの要素数を格納する。リストの要素は、

　List[0]から、List[Listsize – 1]に格納する。リストに登録する要素の個数は、配列Listの大きさ以下とする。また、リストの先頭の要素が格納されている配列Listの添え字は、整数型の大域変数Firstに格納する。

　　Firstの初期値は－1とする。

　[プログラム]

　　〇大域：整数型：Listsize ＝ ０ /\* リストの要素数 \*/

　　〇大域：整数型：First = －1　　 /\* リストの先頭要素の添え字 \*/

　　〇大域：構造体型：List[100]｛

整数型：Next ＝ －1 /\* 次の要素の添え字、初期値は－1 \*/

　　　 文字列型：Value　　 /\* 要素の値、可変長文字列 \*/

　 　　｝

　　/\* 手続MakeList \*/

　　〇MakeList(文字列型：Mvalue)

　　　if( Listsize ≠ ０ )

　　　　　List[Listsize － １].Next ←

　　　else

　　　　　First ← ０

　　　endif

解答群

ア　First

イ　First ＋ １

ウ　First － １

エ　Listsize

オ　Listsize ＋ １

カ　ListSize － 1

　　　List[Listsize].Value ← Mvalue

　　　Listsize ← Listsize ＋ 1

　　　/\* 手続MakeList　の終わり \*/